

インドネシア - 2件

1. 2020年12月時点、インドネシアにおける地熱発電容量は14鉱区より2,130.07MW

2020年12月11日

インドネシアには世界の地熱埋蔵量の40%があり、エネルギー鉱物資源省のデータによると23.9GWの地熱資源量がある。一方で、使用率はわずか2,130.7MWにとどまり、潜在可能性の約8%に過ぎない。2,130.7MWの発電は、以下の14鉱区から供給されている。

地熱発電14鉱区

No.	鉱区名	州	地熱発電所 (PLTP)	操業社	タービン ユニット	発電設 備容量 (MW)
1	A. Kamojang Darajat	西ジャワ	カモジャン Kamojang	PT. Pertamina Geothermal Energy	1×30MW 2×55MW 1×60MW 1×35MW	235
	B. Kamojang Darajat (KOB)	西ジャワ	ダラジャット Darajat	Star Energy Geothermal Darajat II Ltd.	1×55MW 1×94MW 1×121MW	270
2	Cibeureum Parabakti	西ジャワ	サラック Salak	Star Energy Geothermal Salak Ltd.	3×60MW 3×65.6MW	377
3	Dataran Tinggi Dieng	中部ジャワ	ディエン Dieng	PT. Geo Dipa Energi	1×60MW	60
4	Sibayak	北スマトラ	シバヤク	PT. Pertamina	1×10MW	12

	Sinabung		Sibayak	Geothermal Energy	2MW	
5	A. Pangalengan (KOB)	西ジャワ	ワヤン・ウインドウ Wayang Windu	Star Energy Geothermal Wayang Windu Ltd.	1×110MW 1×117MW	227
	B. Pangalengan (Patuha Area)	西ジャワ	パトハ Patuha	PT. Geo Dipa Energi	1×55MW	55
6	Lahendong Tompasso	北スラウェシ	ラヘンドン Lahendong	PT. Pertamina Geothermal Energy	6×20MW	120
7	Waypanas	ランブン	ウルブル Ulubelu	PT. Pertamina Geothermal Energy	4×55MW	220
8	Ulumbu	東ヌサ トゥンガラ	ウルンブ Ulumbu	PT. PLN (Persero)	4×2.5MW	10
9	Mataloko	東ヌサ トゥンガラ	マタロコ Mataloko	PT. PLN (Persero)	1×2.5MW	2.5
10	Sibual Buali	北スマトラ	サルーラ Sarulla	Sarulla Operations	3×110MW	330
11	Karaha	西ジャワ	カラハ Karaha	PT. Pertamina Geothermal Energy	1×30MW	30
12	Lumut Balai	南スマトラ	ルムットバライ Lumut Balai	PT. Pertamina Geothermal Energy	1×55MW	55

13	Sorik Marapi	北スマトラ	ソリックマラピ Sorik Marapi	PT. Sorik Marapi Geothermal Power	1×45MW	45
14	Muara Laboh	南スマトラ	ムアララボ Muaralaboh	PT. Supreme Energy Muara Laboh	1×85.3MW	85.3
合計					42 ユニット	2, 130.7

(出典:エネルギー鉱物資源省)

(出典:12月11日付PABUMNewsウェブサイトニュース)

2. 2020年地熱発電追加容量ゼロ

2020年12月31日

2020年は、商業運転(COD)の対象だった3つの地熱発電所(PLTP)が2021年に延期されたため、地熱発電の追加容量がゼロの年となった。延期となった地熱発電所は以下の通り。

No.	地熱発電所 (PLTP)	州	操業社	発電設備容量 (MW)
1	ランタウ・デダップ Rantau Dedap	南スマトラ	PT. Supreme Energy RantauDedap	90
2	ソリック・マラピ第2号機 Sorik Marapi Unit 2	北スマトラ	PT. Sorik Marapi Geothermal Power	45
3	ソコリア第1号機 Sokoria Unit 1	東ヌサ トゥンガラ	PT. Sokoria Geothermal Indonesia	5

エネルギー鉱物資源省(ESDM)再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)のダダン・クスディアナ総局長は、11月16日に行われた国会第7委員会でのヒアリングにて、3つの地熱発電所は2021年に延期されたが、それぞれ年初には商業運転が開始されると説明した。2021年には、上記の3つの地熱発電所140MWに加え、小規模ディエン地熱発電所(10MW)、ソリック・マラピ地熱発電所第3号機発(50MW)からも商業運転が開始される予定であると付け加えた。

2014年以来、地熱発電追加容量がゼロとなった年は今回が初めて。以下は、2014年から2019年までの地熱発電容量である。

2014年: 1,403.5 MW

2015 年: 1,438 MW

2016 年: 1,643.5 MW

2017 年: 1,808.5 MW

2018 年: 2,043.5MW

2019 年: 2,130.7 MW

2020 年: 2,130.7 MW(追加ゼロ)

(出典:12 月 31 日付 PABUMNews ウェブサイトニュース)